

編集後記

伝統野菜といえば、「京野菜」が有名です。8世紀に平安京が遷されて以降、京都は政治・文化の中心地として長らくその役割を担い、食文化において野菜を使った京料理が発達してきました。しかし近年になり、市場に並ぶ野菜は、栽培のしやすさや流通の都合から、つくりやすい交配種や雑種第一代品種が主流になっていきます。

さて、伝統というとき、栽培の歴史が問われます。「京野菜」は明治以前からの栽培で、100年以上の歴史があります。大阪の「なにわ野菜」もおおむね100年前からを基準にしていますが、「加賀野菜」は1945（昭和20）年以前から、最近注目の「江戸東京野菜」は江戸時代から伝わる野菜と東京となってから1955（昭和30）年頃までの野菜を含めています。

このように地方によって、伝統の定義が異なりますが、草間壽子（2016）は「伝統というと、昔から続く決まったかたちがあり、動かないもののようにとらえられるが、定義があいまいなことによって、時代や状況に応じて変化する可能性をもつ。この変化の可能性は、伝統を継続していくという面では強靱さにつながる。」と述べています。したがって、「定義があいまいなので、（関係者が）参入しやすく、各地で『伝統野菜』の掘り起こしが始まり、これまで価値を認められなかった品目・品種が注目されるようになった。」と近年の伝統野菜見直しの動きを捉えています。

さて、芦澤正和（2002）は、全国の野菜研究者を動員して「地方野菜」を収録し、その数は20科69種類514品種、系統を含めると650種以上に及びます。そして「地方野菜」を、「日本の野菜のほとんどは渡来したものであり、渡来後は日本各地に伝播・馴化され、それぞれの地域でその気候・土壌・食生活・地域的行事などに対応するよう選抜・固定が繰り返されることによって、多くの『地方品種』が分化していった。」と定義しています。

また、青葉高（1993）は、1949（昭和24）年以来30余年間野菜の「在来品種」を調査する中で、各地に残されている「在来品種」は、それがその地に伝わり、一つの品種として成立した歴史を秘めている「生き証人」であることに気がきます。「在来品種」は「生きた文化財」として価値が高いとして、遺伝資源のみならず文化財としての野菜に着目しました。これを、草間（2016）はその土地に適応していく長い時間のなかで、地域の風土や人々の嗜好、利用の文化などの膨大な情報が蓄積されている「生き証人」と捉えています。

同様に、青果物の流通に長らく携わり、「野菜と文化のフォーラム」を主宰した江澤正平（1998）は「在来品種を失うことは文化を失うこと」と考え、先人たちが長い歳月をかけて選び出し、同時に栽培しやすいように、自分たちの風土に合うように改良してきたからこそ、私たちの今の食卓があると、「在来品種」の意義を強調されています。

このように、「伝統品種」「地方野菜」「在来品種」の用語には多くの共通項があり、一方では曖昧さを持ち合わせており、明確に区別することはできません。

本書では、「ゆかりの野菜」として、神奈川県各地で農民が大切に育ててきたさまざまな品目・品種を取り上げました。その中には、これらの用語を厳密に考えるとそれに収まらない野菜があります。また、これから30年、50年と作り続けるとそれは「伝統野菜」、または「ふるさと野菜」といえる野菜になるのではないのでしょうか。

本県では、野菜は古くから換金作物として重視され、西洋文化とともに新たな導入・馴化が図られながら、都市近郊を中心に極めて集約性の高い作目として、篤農家の経験技術を基礎に発展してきました。

1905（明治38）年～1942（昭和17）年に県立農事試験場で野菜・果樹の研究に携わった富樫常治は、本県は農地の狭小なこと、しかし輸送が円滑にできること、また自給が必要な時代であることから園芸作物（とくに野菜栽培）は都市近郊でこそ行うべきと力説しています。太平洋戦争のさなか、1943（昭和18）年に発刊された「神奈川県園芸発達史」の時代背景を思うとき、園芸作物に対する強い信念を伺い知ることができます。

現代の野菜産地の使命は、首都圏への野菜の安定供給と同時に、都市近郊農業として「地産地消」の役割を担わなければなりません。「ゆかりの野菜」は「地産地消」を進める上でのキーワードになります。

さて、各地での取材では、生産者の作り続けてきた野菜への愛着とこだわりを強く感じました。品種を守り続ける生産者を取り巻く今の状況を思うとき、将来にわたり種継ぎされることへの一抹の不安があります。多くの人の理解と支援が必要な時代になっているのではないのでしょうか。

最後に、こころよく取材に応じてくださった生産者、JAなど農業関係者のご協力により本書をまとめることができました。心より感謝を申し上げます。

成松 次郎